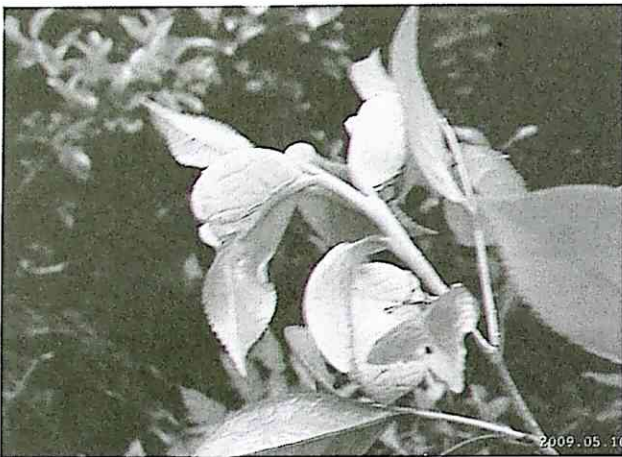


雪国の植物 ユキツバキ 37

ユキツバキの餅病菌の寄生

石 沢 進

ユキツバキに寄生した餅病の病状について記録しておきたい。以前にも山野で見たことがあるが、新発田市松岡20m[新発田 5639-62-68]の山中において2009年5月中旬(朱雁氏発見)にその写真が撮影できたので、ここに掲載する。



疫病に犯されるユキツバキの葉

ユキツバキが餅病に犯される部分は葉であり、葉の全体或は一部が肥厚している。以前に観察されたものも葉が犯されている例が多いようである。ヤブツバキでは、花芽が犯されて一大球状塊をなして15cmになることもなるという(白井1896)。かつて佐渡のヤブツバキで大きな塊になっているのを見たことがある。ヤブツバキに餅病が寄生した記録は古く、上記白井(1896)の分類の記載がある。ヤブツバキを犯す餅病菌は、ツバキノモチビヨウノカビ *Exoascus Camelliae* Shirai と記載され、花芽を犯す菌であると指摘されている。また、サザンカを犯す菌は、

サザンカノモチビヨウノカビ *Exoascus Camelliae* var. *gracilis* Shirai と記載され、葉及び新條を犯し花芽を害することはないという。

椿類の餅病については、以下の文献に掲載されている。ユキツバキの餅病菌が、ヤブツバキやサザンカのどちらかの種と同じであるかどうか確認していない。ユキツバキでは、サザンカと同じように主に葉を犯すようで、別の分類群の可能性もあり、今後の課題である。

白井光太郎(1896, 明治29年) 本邦産餅病属 (*Exoascus*) 新種之説 植物研究雑誌 113号:51-54 (PLIV)・228-231

白井光太郎(1914, 大正3年) 椿木生人手 植物妖異考(下):34-37 甲寅叢書刊行所

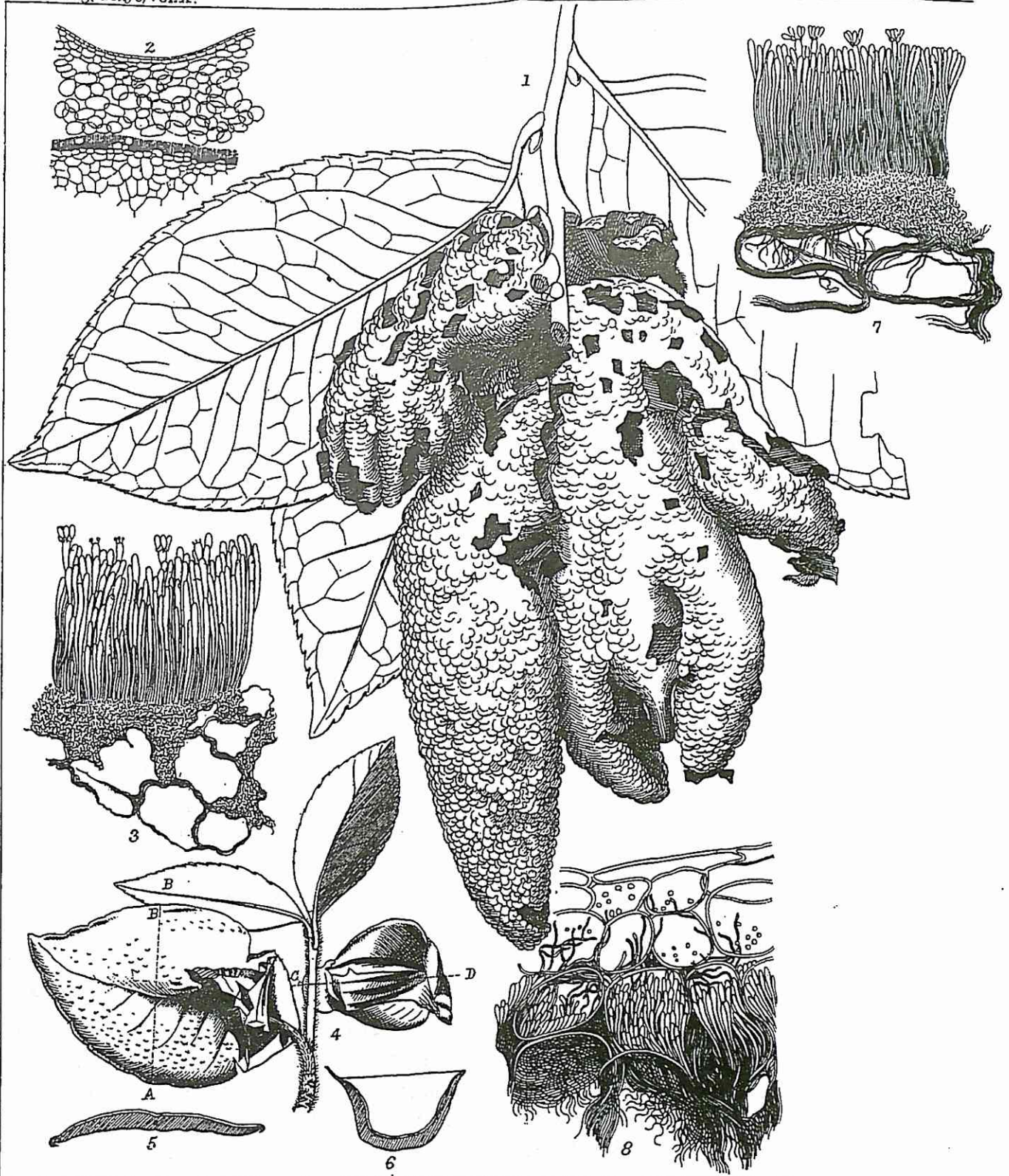
上州山田郡の庭において文化2年5月10日に椿木に人手(図参照)が生え、その色白く、5-6才位の小児の手のようにであったと記録し、それ以外での発生状況が報告されている。



圖七十二第

日野 巖(1978) 椿に人手を生ずる 植物怪異伝説新考 有明書房

上記白井氏の記録を引用すると共にその他での記録を載せている。また、ツツジの餅病菌にも言及している。



M. Shirai del.

図版の解説 (白井氏の論文から引用)

ツバキノモチビヨウノカビ

- (1) 変形せる山茶 (椿) の花部
- (2) 子実層上に表皮及表皮下組織を被るの状
- (3) 子実層

サザンカノモチビヨウノカビ

- (4) サザンカの病葉を着けたる新條
- (5・6) 第4図の病莖を AB・CD の方向に横断しその切面を見るの
- (7) 子実層
- (8) 子実層上に被蓋組織を有する状